

火山学特別セミナー（雲仙岳）

2018年10月31日（水）から11月2日（木）にかけて、雲仙岳の麓の長崎県島原市において、自治体職員を主対象とした火山学特別セミナーを実施しました。コンソーシアムに参画している神奈川県、岐阜県、長野県、長崎県の約10名の職員の他、受講生や気象台の職員の方などが参加しました。火山現象の基礎、現在の火山観測、気象庁の取り組み、災害に対する社会科学の基礎、1991年雲仙岳火砕流による大災害についての講演に加え、各地方自治体の火山防災に関する取り組みの説明、受講生の研究紹介を行いました。また、雲仙岳災害記念館（がまだすドーム）、旧大野木場小学校被災校舎（砂防みらい館）、多くの犠牲者を出した北上木場地区の「定点」や農業研修場の跡地、平成新山などを見学しました。最終日には、自治体の火山防災対策を今後どのように進展させていくか、活発な討論を行いました。

場 所 九州大学地震火山研究観測センター（島原市）

講演者 （火山現象）中川光弘 教授（北大）

（火山観測）清水 洋 教授（九大）

（社会科学）関谷直也 准教授（東大）

（気象庁取り組み）西出則武 特任教授（東北大）

（雲仙災害）松島 健 准教授（九大）

杉本伸一 内閣府火山防災エキスパート

（三陸ジオパーク推進協議会、元島原市職員）

（総合討論）西村太志 教授（東北大）

南沢 修 火山防災幹（長野県）

参加自治体 神奈川県、長野県、岐阜県、長崎県、

※北海道（胆振地震対応のため欠席）